

富山県内のホンモンジゴケ生育地—II

山岡正尾

銅ゴケと呼ばれるホンモンジゴケ *Scopelophila cataractae* (Mitt.) Broth. の富山県内における生育地は、筆者が9箇所について報告した(山岡,1994a)。その後、新たに4箇所の生育地を確認したので報告する。

①本町観音堂(富山市、'94.4.19)。②鹿嶋神社(富山市、'94.6.16)。③春日社・稲荷社・水天宮三社の合祀社殿(富山市、'94.7.2)。④明覚寺(氷見市、'94.7.4)。

なお、これら4箇所の生育地状況及び銅汚染に無関係と考えられる場所での本種の生態などに関する詳細については、後日の機会に記述したい。ただ、氷見市柳田の明覚寺(図1の矢印)はおよそ36°49'36"N、137°00'06"Eに位置し、今(1994年11月)のところ富山県内の生育地としては最北。これは日本海側における本種の分布北限として、注目されている。

この稿を草するに当たり、名古屋大学名誉教授高木典雄博士には指導助言と本種の同定を、広島大学名誉教授・財団法人服部植物研究所岡崎分室

長岩月善之助博士には指導助言と本種に関する貴重な情報を、愛知県のコケ植物研究者寺尾恭平氏には本種の同定などを、山梨県の元高校長田中達弥氏には本種の培養による銅と成長具合の関わりとその所見を、高岡市の織田樹郎氏には本種の生育地や銅耐性等の分析観測資料等を、建設省国土地理院北陸地方測量部の方には本種生育地の緯度・経度の割り出しを、また、本町観音堂管理の凡十や明覚寺ほか本種生育場所関係の方々には多大の便宜を図っていただいた。各位の御厚情に対し深甚なる感謝を申し上げる。

参考文献

- 中西友子,1994.植物による鉍脈探し—植物と元素. 週刊朝日百科植物の世界(21),286-288.
- 長田武正(1988) コケの世界. 大塚薬報, 426(10), 3-12.
- 佐竹研一,1989.重金属に強い不思議なコケ—環境汚染の指標生物として注目. 科学朝日(7), 55-58.
- ,1990.ホンモンジゴケと銅(1).ホンモンジゴケの分布.日本蘚苔類学会会報5(4), 49-53.
- 高木典雄,1988.ホンモンジゴケ余談. 国立科学博

図1. ホンモンジゴケの県内分布と生育調査地域(1994年11月末現在)

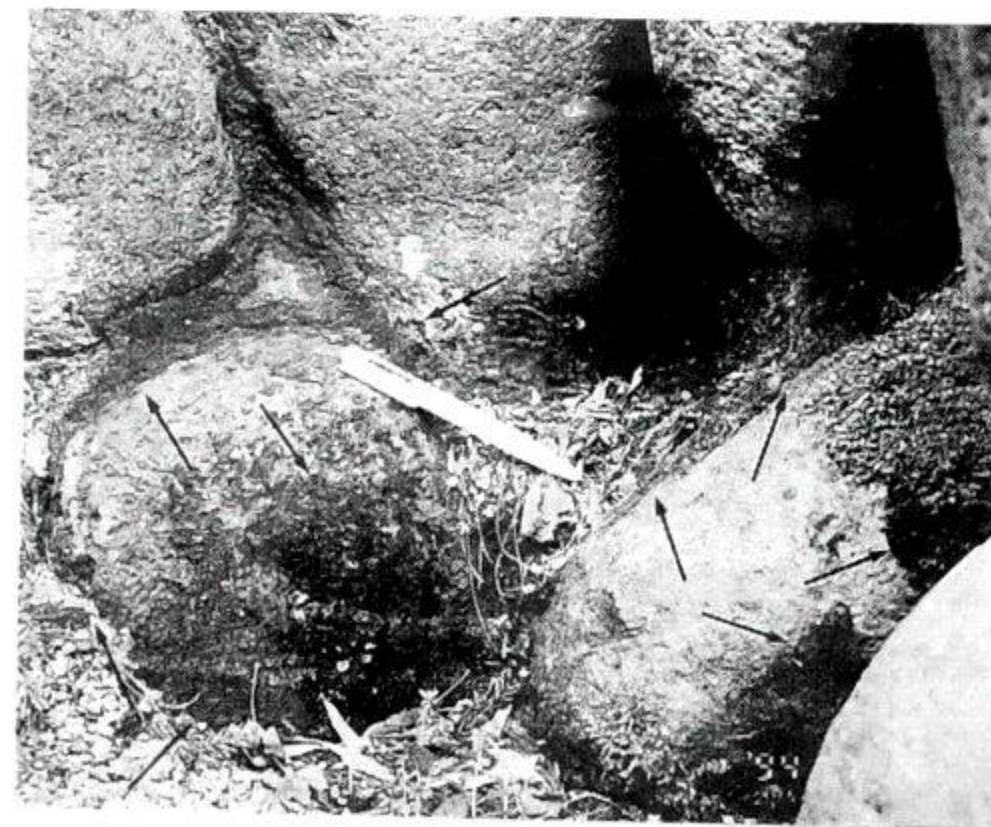


写真1. 氷見市明覚寺の堀の基礎石などに着生しているホンモンジゴケの群落

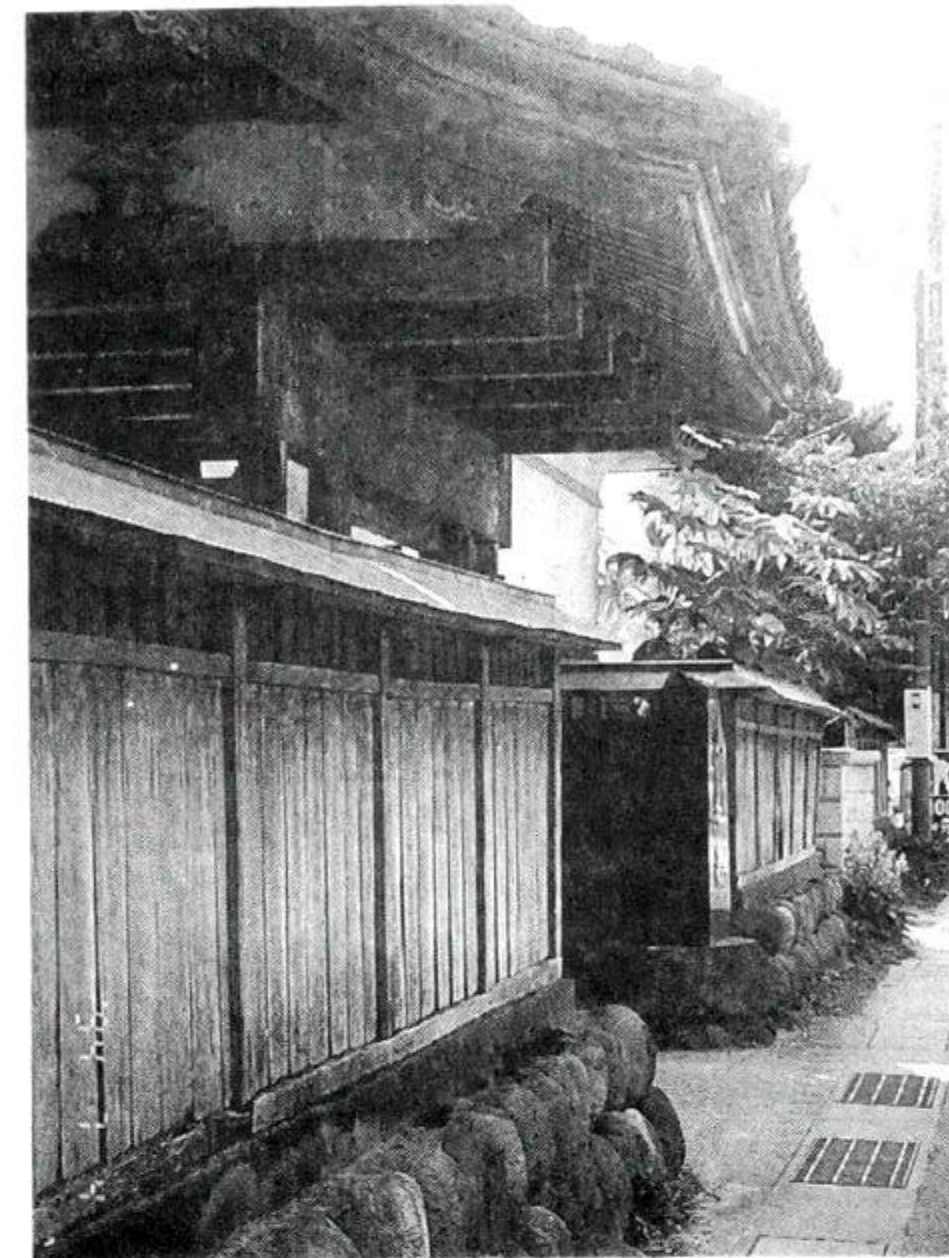


写真2. 氷見市明覚寺の銅板葺き木造堀の国道側この内側にのみホンモンジゴケの群落がある

物館ニュース.236.3-4.

寺尾恭平,1991.ホンモンジゴケニ題.三重コケの会ニュース.16.(1).1.

山岡正尾,1993a.ホンモンジゴケのこと.富山の生物.32.39-41.

——,1993b.富山県におけるホンモンジゴケの分布.日本蘚苔類学会会報,6(2).25-26.

——,1994a.富山県内のホンモンジゴケ生育地I.富山の生物.33.28-29.

——,1994b.ホンモンジゴケ.富山大百科事典下巻.p.874.北日本新聞社.富山.1103p.

——,1994c.富山県におけるホンモンジゴケ,その北限の生育地など.三重コケの会ニュース.17

3-4.26-29 (1994年12月29日受理)